

平成 25 年度  
事業報告書

島根県西部視聴覚障害者情報センター

平成 26 年 3 月 31 日 現在

1 施設名称

島根県西部視聴覚障害者情報センター (開設 平成 12 年 4 月 1 日)

2 所在地

浜田市野原町 1826-1

3 事業計画の達成状況

項 目	利用者の拡大
課 題	平成 21 年度に実施した視聴覚障がい者を対象としたアンケート調査の結果から、施設の存在、業務内容の周知が不十分な実態が明らかになった。個人情報保護の関係で市町からの情報入手が難しく、利用該当者への直接の働き掛けができない。
解決に向けた取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続きあらゆる機会を通じてセンターの業務内容の周知を図る。</li> <li>・平成 24 年度に実施した利用者アンケート調査の結果等を基に、利用者ニーズに即し利用の増加につながるようなサービスの提供を検討する。</li> </ul>
評 価	<p>1. センターの業務内容の周知</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・管内各市町へ様々な機会（事業推進会議、文書、訪問）を通して広報紙への紹介記事の掲載を依頼し、8 市町で掲載された。  <ul style="list-style-type: none"> <li>※浜田市及び益田市のホームページには、昨年度からセンターの紹介記事が掲載してある。</li> </ul> </li> <li>・管内の各市町社会福祉協議会を訪問して広報紙への紹介記事掲載を依頼し、1 協議会からチラシの全戸配布を行ったとの報告があった。</li> <li>・管内各市町の身体障害者手帳交付窓口でセンターの利用案内（墨字、点字、録音）、パンフレット等を配布し、手帳申請時又は交付時にセンターを紹介するとともに、障がいに応じた適切な利用案内等を渡してもらうよう依頼した。</li> <li>・管内の国や県の機関、公的団体を訪問し、センターの業務内容を職員に周知してもらうよう依頼した。</li> <li>・住民の来訪がある国や県の機関、公的団体に、センターのパンフレット等の配布を依頼した。</li> <li>・管内の居宅介護支援事業者等（109 事業所）を訪問し、管理者やケアマネージャーと面談して視聴覚に障がいのある利用者・住民、事業所職員等にセンターの存在やサービス内容を紹介してもらうよう依頼した。</li> <li>・昨年 10 月 27 日に開催された浜田市の健康福祉フェスティバルに参加し、センターの存在をアピールした。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年12月1日に新たな民生委員が選任されたことから、管内各市町の民生児童委員協議会にセンターの事業説明の機会を設けてもらう依頼し、6市町の協議会の総会等へ出席し、視聴覚に障がいのある住民にセンターの存在やサービス内容を紹介してもらうよう依頼した。</li> <li>・平成26年3月31日現在の管内の個人利用登録者数は、視覚障がい者291人（本年度当初比3人増）、聴覚障がい者67人（本年度当初比2人減）である。</li> <li>・管内の個人利用登録者数の視聴覚障がい者数に占める割合は、視覚障がい者27%、聴覚障がい者4%である。</li> </ul> <p>2. 利用者ニーズに即したサービスの提供</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成24年度に実施した利用者アンケート調査、事業推進会議等で寄せられたサービスに対する要望について、センターの判断ですぐに実施できるもの（録音図書一覧表の提供等）、実施に向け検討・準備を要するもの（中途失聴者の手話教室の開催等）、県との協議を要するもの（スカイプ等を利用した手話による中継サービスの実施等）に分け、それぞれ対応や検討、協議を行った。</li> </ul>
--	--

項 目	関係機関・団体との連携
課 題	<p>視聴覚障がい者の自立生活、社会参加に向けた関係機関・団体との十分な連携、前向きな取組を引き出すに至っていない。国の障害者施策が見直され、同行援護、手話通訳、要約筆記等の要望が増加することが予測されていることから、市町、ボランティア団体等と連携して、代読・代筆の能力を有するボランティアを養成・確保する必要がある。また、手話、要約筆記の奉仕員は、東部地域と比較して養成が後れ、登録者数が少ないことから、管内市町の手話・要約筆記奉仕員の養成の取組を促進する必要がある。</p>
解決に向けた取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・関係機関・団体等との連携をより緊密にし、利用者ニーズの把握、課題についての意見交換、取組の情報共有等を図り、事業の見直しや周知を通して利用者の拡大につなげる。</li> <li>・点訳・音訳ボランティア、手話・要約筆記奉仕員の養成・確保について、管内市町、ボランティア団体等と今後の対応を協議する。</li> <li>・市町が実施する手話・要約筆記奉仕員養成講習に対して、人的・物的な支援（手話通訳講師の派遣、要約筆記用機材の貸出し等）を行う。</li> </ul>
評 価	<p>1. 関係機関・団体との情報交換</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年7月4日に県障がい福祉課及び各市町障がい福祉担当課の担当者、視聴覚障がい者団体の代表者の参加を得て事業推進会議を開催し、センターの課題や取り組みを説明して意見聴取と協力依頼を行うとともに、</li> </ul>

	<p>国の障がい者施策の動向、県の取り組み、各市町の視聴覚障がい者施策等について情報共有を図った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・管内各市町、浜田ろう学校、全視情協あさひ事業所等を訪問し、意見交換を行った。</li> </ul> <p>2. 各種ボランティアの養成・確保に向けた協議</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・管内各市町と協議を行い、センター主催の各種ボランティア養成講習の受講者確保に協力を依頼するとともに、市町で行う各種ボランティア(手話奉仕員等)の養成に積極的に取り組むよう要請した。</li> </ul> <p>3. 手話・要約筆記奉仕員養成講習への支援</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・江津市の手話奉仕員養成講習、浜田市の手話奉仕員スキルアップ研修に人的支援を行った。</li> <li>・浜田市の手話奉仕員養成講習に物的支援を行った。</li> </ul>
--	--

項 目	情報化社会への対応
課 題	今日の進展する情報化に、職員・ボランティア、利用者とも十分に対応し切れていない。職員の専門的な技術・能力をさらに高め、ボランティアの技術向上を図って、情報機器の利用を促進する必要がある。また、利用者側において、最新の情報機器を使えるかどうかで情報格差が広がる懸念がある。
解決に向けた取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・視覚障がい者の情報機器の利用技術に関する職員研修を行う。</li> <li>・利用者の要望に応えられるパソコンボランティアを養成する。</li> <li>・利用者に情報機器の利用を呼び掛け、そのための講習会を開催する。</li> <li>・情報機器が使用できない利用者に対しても、センターがリクエストに応じて情報をダウンロードして提供する。</li> </ul>
評 価	<p>1. 視覚障がい者の情報機器利用技術に関する職員研修</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年12月14日に所内研修で実施した。</li> </ul> <p>2. パソコンボランティアの養成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本年3月29日に松江市のいきいきプラザ島根で実施した。</li> </ul> <p>3. 利用者への情報機器利用の呼び掛けと講習会の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・視覚障がい者団体の会議で視覚障害者情報総合ネットワーク「サピエ」の利便性等を紹介した。</li> <li>・本年1月19日に浜田市で開催した機器展示相談会にあわせて、希望する視覚障がい者を対象として「サピエ利用講習」を実施した。</li> </ul> <p>4. 情報機器が使用のできない利用者への情報提供</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者のリクエストに応じて「サピエ」から点字データ、デジータをダウンロードし、それぞれ点字図書、録音図書にして貸し出した。</li> </ul>

項 目	職員の資質・能力の向上
課 題	限られた人員で効率的に業務を遂行するため、一人の職員が複数の資格や技術・能力を身に付ける必要がある。また、視聴覚障がい者を取り巻く状況を把握し、社会福祉制度や日常生活用具等の情報を利用者やボランティアに的確に提供できるよう、職員研修を充実させる必要がある。
解決に向けた取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歩行訓練士の養成課程に職員を派遣する。</li> <li>・全国視覚障害者情報提供施設協会等が主催する研修会に積極的に参加する。</li> <li>・年間6回の所内研修を実施し、視聴覚障がい者を取り巻く社会状況、社会福祉制度、日常生活用具等について理解を深める。</li> </ul>
評 価	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 歩行訓練士養成課程への職員の派遣 <ul style="list-style-type: none"> <li>・職員1名を日本ライトハウス主催の視覚障害生活訓練等指導者養成課程へ派遣した。</li> </ul> </li> <li>2. 関係団体主催の講習・研修への職員の積極的な派遣 <ul style="list-style-type: none"> <li>・中国四国点字図書館連絡協議会主催の中国四国点字図書館館長会議・職員研修会（6月6・7日、米子市）に職員3名を派遣した。</li> <li>・全国視覚障害者情報提供施設協会主催のサピエ研修会（8月1・2日、大阪市）に職員1名を派遣した。</li> </ul> </li> <li>3. 所内研修の実施 <ul style="list-style-type: none"> <li>・年間6回の所内研修を計画し、5回実施した。</li> </ul> </li> </ol>

項 目	各種ボランティアの養成・確保
課 題	点字図書館事業を安定的・持続的に実施していくため、様々な手段で各種ボランティア養成講習の受講者を増やし、登録後も引き続きスキルアップを図るとともに、長期にわたって活動を継続してもらえるよう動機付けを工夫する必要がある。
解決に向けた取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な機関や団体に各種ボランティア募集の機関紙掲載、会員へのチラシ配布、メール配信等を依頼する。</li> <li>・養成講習修了者に対するスキルアップ講習を継続的に実施し、より高度で実践的な技術を身に付けたボランティアを育成する。</li> <li>・ボランティアグループの自主的勉強会に職員を派遣し、スキルアップを支援する。</li> <li>・センター独自の指導者認定制度の創設、表彰制度の改正を検討する。</li> </ul>
評 価	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ボランティア募集の周知 <ul style="list-style-type: none"> <li>・本年3月退職予定の公務員（教職員、県職員、浜田・益田・江津市職員）へ各種ボランティア募集のチラシを配布した。</li> <li>・浜田・益田・江津市のホームページに各種ボランティア募集の記事を掲</li> </ul> </li> </ol>

	<p>載してもらった。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・浜田市、益田市、江津市の広報紙、浜田市のホームページに点訳・朗読奉仕員養成講習会の受講生募集の記事を掲載してもらった。</li> <li>・各市町民生児童委員協議会総会等で各種ボランティア募集のチラシを配布した。</li> </ul> <p>2. スキルアップ講習の継続的な実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・点訳ボランティアのスキルアップ講習を毎偶数月に実施した。</li> <li>・朗読ボランティアのスキルアップ講習を本年3月29日に実施した。</li> </ul> <p>3. ボランティアグループの自主的な勉強会への職員の派遣</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3つの点訳ボランティアグループの自主的な勉強会へ職員を派遣した。 (2グループは毎月1回、1グループは年1回)</li> <li>・2つの朗読ボランティアグループの自主的な勉強会へ職員を派遣した。 (毎月1回)</li> </ul> <p>4. センター独自の指導者認定制度の創設と表彰制度の改正の検討</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・センター独自の指導者認定制度の創設については、活用上の問題があることから、引き続き調査・検討することとした。</li> <li>・表彰制度の改正については、平成26年度に表彰の機会を設けることとし、それにあわせて検討することとした。</li> </ul>
--	---

項 目	地域・生活情報の提供
課 題	サピエの「地域・生活情報」を利用して、地域情報や身近な生活情報をリアルタイムで視覚障がい者に提供することが可能となっており、平成22年度からその情報提供体制の整備に取り組んでいるが、関係機関・団体等との事前協議が進んでいない。
解決に向けた取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サピエの「地域・生活情報」にセンターの情報を掲載する。</li> <li>・浜田市と試行的な情報掲載について協議する。</li> <li>・「事業推進会議」で関係機関・団体等と今後の取組を協議する。</li> </ul>
評 価	<p>1. サピエの「地域・生活情報」へのセンター情報の掲載</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・浜田市及び益田市の日常生活用具給付等制度の情報を掲載した。</li> </ul> <p>2. 浜田市との試行的な情報掲載に向けた協議</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・浜田市の高齢障がい課と協議を行ってきたが、広報担当課の協力が得られないこと、豪雨災害対応による担当職員の減員等により、実施が困難となった。</li> </ul> <p>3. 事業推進会議における関係機関・団体等との協議</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度の事業推進会議の議題に取り上げたが、時間の制約からサピエの「地域・生活情報」の説明にとどまった。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別に各市町を訪問して協議を行った結果、来年度以降、各市町の障がい福祉担当課で作成し提供可能な情報をメール添付でセンターへ送付してもらうよう依頼することになった。</li> </ul>
--	--

項 目	機器情報の提供
課 題	補装具・日常生活用具等の技術開発は目覚しく、利用者に最新の機器情報を積極的に提供していく必要がある。また、カタログだけでなく、利用者が実際に機器を試用し、その利便性を確認の上で購入することが大切である。
解決に向けた取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・障がい者向け新聞・雑誌、インターネット、メーカー等から最新の機器情報を収集し、利用者に提供する。</li> <li>・各地域で機器展示・生活相談会を開催し、更新された補装具・日常生活用具やメーカーから借り受けた機器等を使って、来場者への紹介、試用等を行う。</li> </ul>
評 価	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 最新の機器情報の収集・提供 <ul style="list-style-type: none"> <li>・インターネット、メーカーへの紹介等により最新の機器情報を調査・収集し、相談のあった利用者等へ提供した。</li> </ul> </li> <li>2. 機器展示・生活相談会の開催 <ul style="list-style-type: none"> <li>・年間3回の機器展示相談会の開催を計画し、予定どおり実施した。</li> </ul> </li> </ol>

項 目	「島根あさひ社会復帰促進センター」の活用
課 題	単純作業の多くを「あさひ」に依頼しているが、増大する利用者の要望に応じていくためには、今後、さらに多くの作業を「あさひ」に依頼する必要がある。
解決に向けた取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・業務全般を改めて見直し、「あさひ」に依頼可能な作業を洗い出す。</li> <li>・県からの受託事業として行っている「あさひ」の作業実習内容の検討・指導において、当センターから依頼できる新たな訓練作業に取り組んでもらうよう働き掛ける。</li> </ul>
評 価	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 依頼可能な作業の洗い出し <ul style="list-style-type: none"> <li>・図書、雑誌、資料等のテキストデータ化、センター主催会議等の記録作成（テープ起こし）等が候補に挙がった。</li> </ul> </li> <li>2. 新たな訓練作業の働き掛け <ul style="list-style-type: none"> <li>・将来的な需要の増加を見通し、テキストデータ化に取り組むよう働き掛け、音訳科の履修科目に入れられた。</li> </ul> </li> </ol>

4 事業の内容

(1) 点字図書館利用状況

ア 新規利用登録者数 15 名 (個人 6 団体 9) 利用登録者数 840 名

イ 図書整備状況 (タイトル)

点字図書			録音図書					
			カセット			CD		
製作	受入れ	蔵書	製作	受入れ	蔵書	製作	受入れ	蔵書
137	41	6229	162		3605	163	48	5661

ウ 図書貸出し状況 (タイトル)

点字図書			録音図書					
			カセット			CD		
自館図書	他館図書	ダウンロード	自館図書	他館図書	自館図書	他館図書	ダウンロード	
409	332	12499	2406	6	13431	4203	31669	

エ 録音雑誌製作・貸出し状況 (タイトル)

製作		貸出し				
		カセット		CD		
カセット	CD	自館製作	他館製作	自館製作	他館製作	ダウンロード
46	48	784	364	1703	1874	5198

オ 利用者とボランティアのつどい (参加者数)

利用者	ボランティア	その他
23	24	9

カ プライベートサービス (個人の依頼による情報提供サービス)

	点字	録音	代読	代筆	拡大	その他	計
延利用者数	4	21	16	84		3	128

キ 点字サービス

	市町依頼	団体依頼
回数	12	13
延部数	123	112

ク 録音サービス

	団体依頼
回数	48
延巻数	906

ケ あさひ職業訓練事業

	回数
点訳指導	12
音訳指導	10

(2) 聴覚ライブラリー利用状況

ア 新規利用登録者数 21名 (個人17 団体 4) 利用登録者数 324 名

イ ビデオ整備・貸出し状況 (タイトル)

所蔵	貸出し
1896	211

ウ 中継サービス

回数 12 回

エ 利用者来館

来館者数 39 名

オ セミナー&交流会

参加者数 26 名 (利用者 5 名 その他 21 名)

カ 手話通訳

件数 5 件

キ 手話奉仕員養成協力

件数及び回数 1 件 3 回

(3) 地域生活支援事業

ア 点訳・朗読奉仕員養成事業

	会場数	回数	参加者数	修了者数
点訳奉仕員養成講習	1	24	延104	5
朗読奉仕員養成講習	1	21	延88	4
広報音訳奉仕員養成講習				

イ 点訳・朗読奉仕員技術講習会

	回数	参加者数
点訳技術講習	26	延232
朗読技術講習	20	延191

※校正講習含む

ウ 中途失明者生活訓練等事業

		大田市	邑智郡	江津市	浜田市	益田市	鹿足郡	計
歩行訓練	回数	1			18	4	1	24
	実人員	1			4	2		7
コミュニケーション・日常訓練	回数	21		6	7	1	5	40
	実人員	5		4	5	1	1	16



島根県西部視聴覚障害者情報センター

エ 障害者コミュニケーション・情報化支援事業

	回数	延日数	延人員	実人員
講習会	2	7	69	9
訪問講習				
機器展示	3	3	126	

オ パソコンボランティア等養成事業

回数	参加者数	新規登録者数
1	8	—

※登録者数 139名

フォローアップ研修のため、新規登録なし

(4) 市からの受託事業

ア 点字・録音広報発行

	浜田市		益田市		江津市	
	回数	延冊・巻数	回数	延冊・巻数	回数	延冊・巻数
点字広報	—	—	12	200	15	90
録音広報	18	586	—	—	17	225

イ 大田市障害者生活支援事業

	歩行訓練	点字訓練	パソコン訓練	計
回数	12	12		24
実人員	1	3		4
延人員	12	36		48

ウ 浜田市障害者生活支援事業(料理教室)

	回数	実人員	延人員
視覚障がい	22	1	9
肢体不自由		12	105
聴覚障がい		5	44

ボランティア 実人員4名 延人員21名

エ 益田視覚障害者生活支援事業

	歩行訓練	コミュニケーション訓練	日常生活訓練	計
回数		12	11	23
実人員		2	2	4
延人員		24	22	46

(5) その他事業

ア 福祉体験学習

	施設内(来館)		施設外(派遣)		計	
件数及び対象者数	5	159	2	19	7	178

イ 相談事業

	視覚	聴覚	計
福祉機器	24	14	38
日常生活	6	4	10
進路相談	2		2
その他	5	6	11
計	37	24	61

ウ 機器貸出し状況

	視覚	聴覚	その他
補装具	6		
日常生活用具	2	3	
その他	7	27	
計	15	30	

エ 広報紙「かわらばん」発行

回数	点字版	録音版	ルビ版
4	52	634	1907

オ 奉仕員登録者数

点訳奉仕員	朗読奉仕員	デイジー編集ボランティア
287	296	18

カ デイジー編集ボランティア養成

	回数	延日数	延人員	修了者数
養成講習	1	3	22	5
フォローアップ研修				

キ 普及啓発事業

- ・事業推進会議 7月4日
- ・浜田市健康福祉フェスティバル参加 (点字・手話体験等) 10月27日

## 5 施設職員の状況

	施設長	事務職員	その他	計
正規	1	3		4
常勤		2		2
非常勤				
計	1	5		6

## 6 施設における職員研修の開催状況

## (1) 施設内研修

研修内容	期日	参加者数	研修内容	期日	参加者数
重点活動方針及びセンター事業計画	4月22日	6	ハラスメントのない職場づくり	10月8日	6
視聴覚障がい者用機器	7月12日	6	視覚障がいパソコン利用技術	12月14日	6
補装具及び日常生活用具給付等制度	9月6日	6			

## (2) 派遣研修

研修会名	開催年月日	参加者数
視覚障害生活訓練等指導者養成課程（第43期）	4月8日～11月26日	1
中国四国点字図書館長会議、職員・ボランティア研修会	6月6日～6月7日	3
平成25年度サピエ研修会	8月1日～8月2日	1
第32回音訳指導技術講習会	11月20日～11月22日	1
平成25年度録音担当者研修会	1月29日～1月30日	2

※ 本部研修及び交流体験研修を除く。